

【事業者向け】 放課後等デイサービス自己評価表

作成日 2023.10.10

事業所 旭もえぎ

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見	改善策
		数が多かった方に「○」をつけさせて頂いております。				
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			仕切り使用し低学年・高学年を分けて自由遊びを行う。活動内容に合わせてスペースを適切に使用している。	年齢や活動内容に合えさせて適切な環境設定を実施します。
	② 職員の配置数は適切であるか	○				
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		洗面所まで階段があるため声掛け支援が必要。	バリアフリーでない為、声掛け支援を強化します。
業務改善	④ 業務改善を進めるための、PDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○	○		情報共有を行っているが認識の相違があるためすり合わせが必要。余暇外出は目的があり実践後の振り返りも行っている。	日々の職員間において認識や情報共有を行う機会を増やしていきます。
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○				
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○	○			
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○	○			
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			法人内研修はあるが資質向上につながっているかは疑問である。	研修内容を実践できるよう事例検討会を増やします。
適切な支援の提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成し、子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○				
	⑩ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○	○		常勤が主体であり準備等はチームで行われている。非常勤もアイデアを作る機会を作る必要あり。	従業員が皆で考えられる機会を作っていきます。
	⑪ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○				
	⑫ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			長期休暇対応時は余暇活動を設定している。	ご満足いただけるように支援内容をより検討していきます。
	⑬ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			毎月の固定支援で曜日対抗を行い子どもたちのチーム活動を支援している。	子どもたちの主体性を伸ばすため今後もチーム活動を行う支援を実施します。
	⑭ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			下校時間が早い時は打合せする時間を作れない。毎日職員MTを行い利用者状況など共有。	下校時間が早い時のMT時間を設定し声かけします。
	⑮ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか		○		職員同士での情報共有を行っている。	引き続き情報共有強化します。
	⑯ 日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			支援の検証まではつながっていない。	職員会議。研修の機会支援検証を行います。
	⑰ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○				
	⑱ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○				
関係機関や保護者との連携	⑲ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○				
	⑳ 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○				
	㉑ 医療ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○		医療的ケア児の受け入れは環境的に困難。要望がない。	施設の環境的に医療ケア児の受け入れが難しいです。
	㉒ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			契約時に情報をご家族様より提供頂いてる。	ご家族様のご協力に感謝します。
	㉓ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			卒業後に障害福祉サービスをご利用のお子さんがいない。	支援を行う中で将来をイメージし支援していきます。
	㉔ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○		センター参加の機会が無い。旭区役所発信研修には参加。	各機関の研修機会をみつけ従業員へ周知します。
	㉕ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会はある（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか		○	○	他機関との交流機会を設定したい。	各機関の研修機会をみつけ従業員へ周知します。
	㉖ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			職員による認識違いがある。公式ラインで情報を発信し送迎時口頭でもお伝えしている。	認識の違いは話し合う機会を設定します。保護者様へ引き続き発信を行います。
	㉗ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			支援提供時間以外のご相談を多く受けている。専門家による講演会等の開催をしたい。	支援提供時間以外での相談に関して他機関とも連携し調整していきます。

